

国際会議報告

第8回世界交通会議

THE EIGHTS WORLD CONFERENCE FOR TRANSPORTATION RESEARCH

羽藤 英二

Eiji HATO

正会員 修(工) 愛媛大学助手 工学部環境建設工学科 (〒790-8577 松山市文京町3)

第8回世界交通会議 (8th World Conference for Transportation Research)が去る7月12日～7月17日の日程で、ベルギー王国のアントワープ市内のAntwerp大学キャンパスで開催された。同会は3年に1回開催される、国際レベルの交通各分野にまたがる会議である。ちなみに、我が国では、第5回大会が1989年の7月に横浜で開催されている。毎回世界各国から数多くの発表がなされ、活発な討議が行われている。我が国から多くの発表が行われている。

今回の参加人数は約520人、プログラムにエントリーされた論文は約1160編であり、表-1のような各研究分野に分類されている。日程は、表-2に示すようになっている。発表は全部で14の時間帯(1時間帯は110分)に分けられ、各時間帯で20のセッションがパラレルに開催された。各セッションの発表件数は5～3件であり、発表時間20分に質疑応答が5～10分程度とられた。たいへん多彩な分野構成となっており、他の国際的な会議と比べて、網羅する研究分野の幅の広さが際立っている。そのため、会議の内容について全てをとりまとめることは難しい。ここでは著者が参加した範囲で、会議に対する印象を報告することとする。

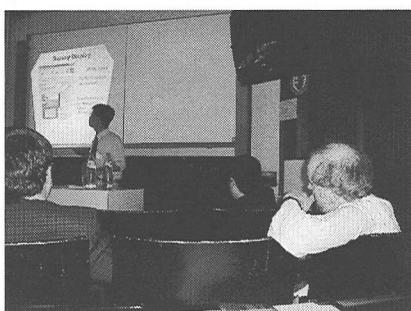


写真-1 セッションでの発表風景

まず、全体には、開催国のベルギー王国および欧州を中心に、我が国や次回開催国の韓国を中心としたアジアなどを含め、多くの国からの参加があり全体的には盛況であった。各発表会場は隣接しており、OHPが完備されているとともに、会場を探すのに手間取るという点も無く、この点は前回と比べて快適な発表環境であった。

表-1 発表分野の分類

分野	分野領域
A. 交通機関	海上交通、港湾、道路・鉄道技術開発、航空と空港(SIG), 内航海運
B. 交通システム	公共交通・インターモーダリティ、テレコミュニケーション・高度情報システム(SIG), 物流管理(SIG), モーダルインターフェイス・物流交通の組み合わせ、都市内物流(SIG), 統合管理供給チェイン
C. 計画、運用、管理、制御	交通システム計画の統合化、安全分析と政策(SIG), 交通制御、交通管理・課金政策、交通システム維持管理(SIG), ネットワークデザイン・最適経路・スケジューリング
D. 交通モデリング	旅客交通需要モデル、物流交通需要モデル、需要供給統合モデル、GISの適用、データ収集手法、交通・荷役行動研究
E. アセスメント、シナリオ評価	交通インフラプロジェクトなどの評価手法、パフォーマンス測定、外部/内部費用便益評価、ケーススタディ
F. 土地・環境経済・工学	交通と土地開発(SIG), 都市と交通、交通と環境: 地球規模の変革(SIG), 地域と地方のインパクト(SIG), 持続可能性の評価尺度
G. 発展途上国における交通	都市開発問題(SIG), 地方交通、非自動車交通(SIG), 経済開発のための交通の役割、ケーススタディ
H. 交通政策、規制、補助金・投資	公共部門のパフォーマンス、官民協力と主要公共事業、規制緩和・新たな機関コンセプト、専門的実務・教育・倫理、交通組織における戦略的変革の適用

※ SIG:Special Interest Groupによる運営がなされているセッション

表-2 会議の日程概略

月 日	行事
7月12日(日)	登録, ウエルカムパーティ
7月13日(月)	開催式, CS(Conference Session)1~2
7月14日(火)	CS3~5
7月15日(水)	CS6~8, テクニカルツアー, コンサート
7月16日(木)	CS9~12, クロージングディナー
7月17日(金)	CS13~14, 閉会式

会議そのものとは関係ないが、キャンパス内で提供された毎日の昼食はいずれも満足いくものであり、特にデザートに関しては、さすがGodivaで有名なベルギーを感じさせるものであった。

また、今回からペーパーショップが設けられた。ペーパーショップにおいて、自分の希望するペーパー番号を告げると、ペーパーのコピーが手渡される。会議参加者には論文5部まで無料の引き換えクーポン券が手渡されており、それ以上は有料となる。ペーパーショップにおける待ち時間はやや長く(著者も1時間ほど並んだ)、運営の仕方には一部問題があったと思われる。しかし、20ものセッションがパラレルで開催されているため、発表を開きたいが会場に行けない場合も多く、発表者が持参した論文が十分に入手できなかった前回までの問題点に対応した今回の試みは高く評価できる。

会議場に併設された展示コーナーでは、欧州の公的機関を中心に交通に関連する様々な展示が見られ、この分野の最新技術を体験できるデモンストレーションがおこなわれていた。GPSとWWWサーバーを利用した交

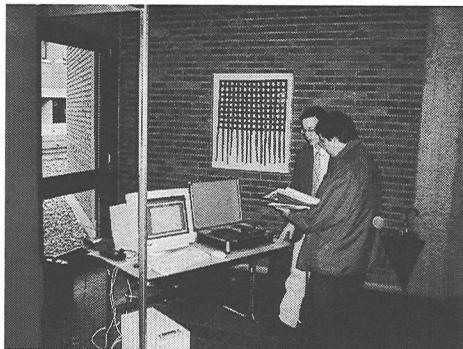


写真-2 展示の様子

通常動のデータ収集装置などについては欧州のベンチャー企業も出展しており、若い技術者による熱心なデモンストレーションは大変興味深いものであった。

また最近の国際会議の流行であろうが、電子メール用の端末が10台以上会場に設けられていた。国際会議に参加したときくらい職場と連絡を取りたくないと考えの方も少なくはないと思われるが、どうしても連絡をとりたい場合に、時差の関係もあることから、こうしたサービスは必要不可欠ではなかろうか?(著者がコンピュータルームに足を運んだ際には常時7,8人は電子メールを利用していたようであった)。

本国際会議は、交通分野の研究者や実務者の間の、3年に一度の定期的な大イベントとして定着している。また大規模な会議にありがちな運営上の問題点も解消されつつあることを感じた。次回の第9回の会議は2001年に隣国韓国で行われることのこと。我が国から多くの研究者や実務者が参加されることが望まれる。

(1998.8.21 受付)